コンプライアンス	リスク管理	法務	サステナビリティ	内部統制	監査	企画	人事	広報	経理財務	役員	その他
○	○	○	○	○	○			○		○	

コンプライアンス担当者の為の法令研究会

担当：上席研究員　髙野 一彦

1．研究の狙い（目的、趣旨）

「コンプライアンス」は単に法令遵守ではなく、社会の「期待」に応えることと解されています。その取組は、マネジメント・システムとして経営に組込まれ、企業価値の創造に寄与することとなります。

本研究会はスタッフ部門の方を広く対象とし、企業のコンプライアンス、リスク・クライシスマネジメントの基礎を押さえた上で、ファジーな法律の適法ラインを確定し、コンプライアンス実務（規程・マニュアル作成、社員研修、内部通報、コンプライアンス監査など）の具体的な「解」を探究します。

本研究会は、2021・22 年度と最も参加者が多い研究会として、また 23 年度も 108 名の方にご参加頂き、有識者を招聘してのセミナー開催、会員企業の取組のご報告、クライシス・トレーニングなど、大きな研究会だからこそ可能な活動を行なって参りました。24 年度もまた、多くの方のご参加を期待しています。

2．本年度の実施内容（毎月の実施内容、等）

月　日	内　容
5 月 24 日 （金）	**コンプライアンス概論、会員企業の取組報告** 内　容：　前半は、本年度の講義計画を説明した上で、コンプライアンス論の基礎と近年の動向を講義します。後半は、「当社のコンプライアンスの取組」をテーマに、**会員企業**にご報告頂きます。
6 月 21 日 （金）	**リスクマネジメント概論、会員企業の取組報告** 内　容：　前半は、リスクマネジメントの基礎と近年の動向を講義します。後半は、「当社のリスクマネジメントの取組」をテーマに、**三菱マテリアル株式会社様**にご報告頂きます。
7 月 19 日 （金） 関西研究会との合同開催※1 （オープンセミナー）	**企業不祥事の調査報告書の分析から発生原因を探求し、当社の対策に生かす** 内　容：　企業不祥事が発生すると調査委員会・第三者委員会が発足し、報告書が公表されます。これらの報告書から発生原因を探求すると、当社で同様の事件を起こさない為の対策のヒントを導き出すことができます。本研究会では、損害保険ジャパンの常務取締役を務め、著書『企業不祥事の研究』『企業不祥事とビジネス倫理』で数多くの企業不祥事の研究を発表し、また近年はビックモーター・損保ジャパン事件の分析を公表されている**井上泉先生**にご講演を頂き、**会員企業**とのパネル・ディスカッションを行ないます。 招聘講師：**井上泉先生（ジャパンリスクソリューション社長、日本経営倫理学会常任理事）**
9 月 27 日 （金）	**内部通報制度と通報対応、会員企業の取組報告** 内　容：　内部通報への対応はコンプライアンス部門の重要な仕事であることは論を俟ちません。グローバルも含め各事業の取組を把握するコンプライアンス体制の構築・運用、内部通報制度の構築・運用、個々の通報にどのように対応するのかは、コンプライアンス部門のみなさまにとって関心が高いと思います。本研究会では前半は、内部通報制度のクロノロジーと基礎をテーマに講義を行ないます。後半は、「当社のコンプライアンス体制、内部通報制度と通報対応」をテーマに、**日本たばこ産業株式会社様**にご報告頂きます。
10 月 18 日 （金）	**効果的なコンプライアンス研修 1　ケースメソッド教育とファシリテーション、会員企業の取組報告** 内　容：　コンプライアンス研修の教育方法は、多くの企業のコンプライアンス部門でご腐心・探求されており、関心が高いことと思います。本研究会では前半は、ケースメソッドなどの効果的なファシリテーションに関する講義を行ないます。後半は、「当社グループのコンプライアンス教育」をテーマに、**株式会社 日立医薬情報ソリューションズ様**にご報告頂きます。

11 月 29 日 （金）	**効果的なコンプライアンス研修 2　ケース・ライティング、会員企業の取組報告** 内　容：　コンプライアンス研修は参加者の満足度を上げることで教育効果が上がり、次の研修につなげることができます。その意味でケースメソッド教育は効果的ですが、議論が盛り上がるケースを作成することが重要です。本研究会では前半は、ケース・ライティングとファシリテーションの講義を行ないます。後半は、「当社におけるケース作成とファシリテーター養成の取組」をテーマに、**会員企業に**ご報告頂きます。
12 月 20 日 （金） 関西研究会との 合同開催※1	**クライシスマネジメントと謝罪会見、クライシス・トレーニングの事前説明** 内　容：　前半は、危機管理広報の専門家を招聘して、近年の企業不祥事と謝罪会見を例に、クライシス広報のあり方をテーマに講演を行います。後半は、1 月 17 日（金）に実施予定のクライシス・トレーニングの前提シナリオを説明します。 招聘講師：**両角晃一先生（東北福祉大学客員教授、元テレビ朝日常務取締役広報担当、元東日本放送社長、元朝日新聞社社会部次長、広報部長）**
1 月 17 日 （金） 関西研究会との 合同開催※1	**クライシス・シミュレーション・トレーニング** ※外部有識者として、危機管理広報の専門家を招聘し、講評とご指導を頂きます。 ※リアル＋ZOOM のハイブリッドにより、関西研究会と合同で実施します。 招聘講師：**両角晃一先生**

追記

※1．7 月のセミナー、12・1 月の研究会は、会場＋Zoom により、関西研究会と合同で開催します。

3．運営の方法

（1）5～12 月の研究会

5・6 月は、企業のコンプライアンス、リスクマネジメント・クライシスマネジメントの基礎をテーマに研究会を行います。7～12 月は、企業のコンプライアンス部門の方の関心が高い個別テーマを深掘りします。できるかぎり、先駆的に取り組んでおられる会員企業の事例をご報告頂き、また外部有識者を招聘して最新情報を共有する機会を設けます。

（2）1 月の研究会

「クライシス・シミュレーション・トレーニング」を行います。これは、経営者として会社を危機から救うための経営判断のロールプレイトレーニングです。みなさんは、前提シナリオの中の企業の経営者として、クライシスに対して、①初期対応、②緊急危機対策本部での対応、③記者会見準備、④模擬記者会見、の各フェーズに対応します。クライシス発生時の経営判断を模擬的に経験することは、危機対応力の向上とともに、平時のコンプライアンス・リスク管理の見直しに寄与します。

4．参加者への期待

（1）法学未経験であっても、スタッフ部門でコンプライアンス、リスクマネジメントに携わっている方であれば、ご遠慮なくご参加頂けましたら幸いです。

（2）研究会で参加企業の事例発表をお願いする場合があります。これは参加者の間の秘密保持、研究会外での非開示を約束して頂いた上で行います（いわゆる「チャタムハウスルール」）。

（3）参加者の交流を心がけており、BERC 講義室でご参加頂いた方で適宜、懇親会を開催します。

5．日程

開催期間：変則期

開 催 月：5 月～1 月の毎月 1 回、原則として金曜日、 8 月は休会

開催時間：・5 月～12 月は原則として 1 回 3 時間、14：00～17：00 で開催します。

・1 月のクライシス・トレーニングは、13：00～17：30 で実施します。

6．オープン

7．開催方式：リモートと対面のハイブリッド開催を原則とする

※本研究会は参加者同士の交流が魅力ですので、できるだけ BERC 講義室での参加をお願いします。